

錆 発生箇所の下塗りに・・・

パワー防錆 SP041

パワー防錆EP039より強力に

抜群の作業性は変わらず さらに高い防錆力と耐久性!

※パワー防錆 EP039 比較

3種ケレン程度で下処理が完了するなど、作業性の良さはそのまま、防錆力と耐久性が大幅にアップ。
沿岸部のプラントや工場、船舶などの過酷な現場でも、さらに強力な防錆効果を長期間発揮します。

- ◆防錆力・耐久性が大幅アップ
- ◆過酷な環境下でも、長期間防錆効果が持続
※沿岸地域のプラント、工場、船舶など
- ◆環境配慮型防錆下塗り剤 (鉛・クロム・亜鉛フリー)
- ◆最小限の表面処理でOK (3種ケレン以上)
- ◆多種多様な素地・上塗りに対応
- ◆すでに発生している錆の進行を抑制
- ◆混合比率 1:1 (重量比) と取扱いが簡単



※パワー防錆 SP041 塗布後、パワー防錆 AP089 で塗装

使用方法

- ① 浮き錆や不活性塗膜は除去し、3種ケレン以上のケレンを行ってください。
活性塗膜部分は、表面の目荒しを行ってください。
- ② 被塗面のダスト類を除去してください。
海水・酸・アルカリなどで汚染されている場合には、清水洗浄を行ってください。
- ③ 混合前に主剤・硬化剤をそれぞれ、電動攪拌機などで粘度が均一になるまで攪拌してください。
- ④ 主剤と硬化剤を1:1 (重量比) の割合で混合し、3～5分程度よく混ぜ合わせてください。
- ⑤ 塗装は、刷毛・ローラー・エアレスガンを使用してください。
- ⑥ 使用後の容器・工具類は【EPレデューサー】、またはラッカーシンナーで洗浄してください。
- ⑦ 12時間以上乾燥後、使用する上塗り塗料の仕様に従って塗装してください。
※乾燥時間は、気温20℃・湿度60%の環境下での目安です。状況に合わせて調整してください。
※上塗りに【パワー防錆 AP089】をご使用いただく事で、更に強力な防錆力が得られます。

使用上の注意

- 屋外及び日光にさらした場合、黄変、色あせ、チョーキングが起きる事があります。
- 低温時や硬化反応中に塗膜表面に結露・湿気が加わると、ブラッシング現象を起こす事があります。
- 硬化剤混入後、通常はすぐに使用できますが、低温時(10℃以下)には、30分程度熟成時間を取り、使用してください。
- 希釈が必要な場合には【EPレデューサー】を、主剤・硬化剤を混合した重量に対し10%を限度にご使用ください。
- エッジ・ボルト部などは、あらかじめ刷毛などで先塗りをしておいてください。
- 使用後はしっかり蓋をし、1～2ヶ月の間に使い切るようにしてください。



【色 調】 アイボリー

【容 量】 10kg セット (主剤・硬化剤 各5kg)

【標準塗布量】 約 37～78 m² (127～265 g / m² : 1～2回塗り)

【乾燥膜厚】 60～125μm

【上塗りまでの乾燥時間】 約12時間 (気温20℃・湿度60%の環境下での目安)

【混合比率】 主剤:硬化剤 1:1 (重量比)

■ 塗布面積は目安です。被塗物・作業方法等で多少異なります。

■ 素材・気温・湿度により多少異なる場合があります。

◆塗装工程を大幅に短縮

他社防錆塗料での施工に必要な下塗りは2回、さらに中塗りも必要。
 パワー防錆は下塗りを1回に短縮。
 これにより、作業工程約43%削減*を実現しました。
 *国土交通省新技術情報提供システム(NETIS)登録No.KT-120046-Aデータより

【工程例】

他社製品	素地調整	防食下地	下塗り 2回	中塗り	上塗り
パワー防錆シリーズ	素地調整	SP041 (下塗り)	AP089 (上塗り)		

◆塩水噴霧試験 6,000 時間 (実環境の約 12 年に相当)



A: 他社塗料 B: SP041

品名: A(左) 他社エポキシ塗料
 B(右) SP041
 試験方法: JIS K 5600-7-1:1999
 35℃/5%塩化ナトリウム
 水溶液連続噴霧

◆パワー防錆 SP041 仕様

工程	塗料・塗布量・塗装方法
1. 素地調整	塗装面の汚れ(サビ・油・水分・ホコリ)を溶剤、サンドペーパーなどで除去
2. 下塗り	パワー防錆 SP041 塗布 60~125μm (刷毛・ローラー・エアレスガン)
3. 乾燥	12時間(気温20℃・湿度60%の環境下)
4. 上塗り	パワー防錆 AP089 (アクリル変性ポリウレタン)

下塗り[パワー防錆 SP041] / 上塗り[パワー防錆 AP089]を使用の場合

◆性状

項目	性状
主剤・硬化剤混合比	主剤:硬化剤=1:1(重量比)
乾燥膜厚	60~125μm
塗布量	127~265g/m ² (1~2回塗り)
作業性	刷毛・ローラー・エアレスガン
ポットライフ	3~5時間(気温20℃・湿度60%の環境下)
塗り重ね可能時間	4~6時間(気温20℃・湿度60%の環境下)
上塗り可能時間	12時間以上、14日以内(気温20℃・湿度60%の環境下)

◆塗膜性能試験データ

試験項目	結果	試験内容
耐衝撃性	異常なし	JIS K 5600-5-3 おもり落下法 Dupon 式 300g 高さ 50cm
付着性	100/100	JIS K 5600-5-6 クロスカット法 2mm×2mm クロスカット
耐液体性試験 アルカリ性	異常なし	JIS K 5600-6-1 5%水酸化ナトリウム 23℃ 168時間浸漬
耐揮発油性	異常なし	JIS K 5600-6-1 試験用揮発油 3号 23℃ 168時間浸漬
耐水性	異常なし	JIS K 5600-6-1 脱イオン水 23℃ 240時間
耐中性塩水噴霧性	異常なし	JIS K 5600-7-1 5%塩化ナトリウム 35℃ 6,000時間
サイクル腐食性	異常なし	JIS K 5600-7-9 サイクル D (塩水噴霧:30℃:0.5時間)→(湿潤:湿度95%:1.5時間)→ (熱風乾燥:50℃:2時間)→(温風乾燥:30℃:2時間) 120サイクル
温冷繰り返し	異常なし	JIS A 6909 (23℃:18時間)→(-20℃:3時間)→(50℃:3時間) 10サイクル
ヒートサイクル試験	異常なし	(-50℃:1時間)→(30℃:1時間)10サイクル後 JIS K 5600-5-6 クロスカット法 2mm×2mm クロスカット

※試験の塗布量は、標準的に使用する量で行っています。
 実際の作業は、必要に応じ所定の塗布量・膜厚になるよう調整してください。

◆塗布可能な被塗面

塗装可能な被塗物	密着性
錆面	○
亜鉛メッキ面	○
溶融亜鉛処理鋼材	○
アルミ	○
ステンレス	○
旧塗膜(活性塗膜)	○
コンクリート面	○

◆適正な上塗り

塗装可能な被塗物	密着性
2液アクリルウレタン	◎
2液ポリウレタン	◎
速乾性アクリルウレタン	◎
2液弱溶性ウレタン	◎
2液型フッ素樹脂塗料	◎
2液型シリコン樹脂塗料	○
1液弱溶剤ウレタン	○

【販売元】

【製造元】

再生・延命化への技術革新——鉄、コンクリート……

株式会社 染めQテクノロジー

〒306-0313 茨城県猿島郡五霞町元栗橋5971番地
 TEL.0280-80-0005 (代) FAX.0280-80-0006 (代)
 E-mail:support@somayq.com http://www.somayq.com